

評価される場じゃない。全員が当事者として関わる発表会。

本発表会は、すでに動き出している事業や取り組みの「現在地」を持ち寄り、参加者・行政・ゲストが立場を越えて関わりながら、その場で次の一手を具体化していく場として実施されました。

当日は10名が登壇し、出店・サービス開始を予定している方など、具体的なアクションや計画を前提とした発表が行われました。

一方的に発表して終わるのではなく、全員が当事者として関わり、その場でブラッシュアップが進むことで、「次に何をやるか」が明確になる発表会となりました。

※以下内容は、発表会当日に発表された内容の概要をもとに掲載しています。

清水亜実さん

「あの時の自分」を、もう一人もつくりたいために。

誰にも頼れず、心も体もギリギリだった産後の経験。

「母親なんだから自分が頑張ればいい」と思いながらも、本当は限界だった——その実体験が、清水さんの原点です。

“孤独な孤育てをなくしたい”という思いから、訪問型産後ケアや赤ちゃん食堂といった取り組みをスタート。一番しんどい時期に、直接会いに行き、話を聴き、支える仕組みをつくっています。

すでに地域での活動も始まっており、単なるアイデアではなく「どう届けるか」「どう広げるか」という具体的なフェーズに入っています。今後は行政や企業との連携も視野に入れながら、産前から繋がれる支援体制の構築を目指しています。

「過去の自分のような人を、一人にしない」

その思いが、そのまま事業として形になり始めています。



小林あゆみさん

“好き”を、売るところまでやってみた。

もともとお菓子作りは好き。でも、「販売したことはない」。そんな状態から、小林さんの挑戦は始まりました。

今回の発表会に向けて、自らコンセプトを設計し、商品を開発し、実際に販売イベントを企画・実施。SNSでの発信も重ねながら、来場導線まで自分で作り上げてきました。

イベント当日は想定を大きく上回る来場があり、用意したお菓子は早い時間で完売。2日間で200個以上を販売する結果となりました。

「作るのが好き」から「価値として届ける」へ。

実際に売るところまでやり切ったことで、次の展開に繋がる具体的な手応えと課題が見えた挑戦となりました。



問 茅野市 商工課 工業・産業振興係 72-2101(内線433)

2026年
2月21日

茅野市民館
アトリエホール
にて実施

茅野市女性起業支援プログラム

実践-ジッセン-発表会

発表会の“全体像と舞台裏”を、皆様にお届けします！

2026年2月21日、茅野市民館アトリエホールにて

「起業支援プロジェクト〈実践〉発表会」を開催しました！

✓ 実践-ジッセン-とは？

従来の全体で行うセミナーとは異なり、「実践」はセミナーを受けて終わる起業支援ではありません。

一人ひとりの状況に合わせて“自分だけのロードマップ”を描き、実際に行動しながら進めていくプログラムです。SNS等の情報発信セミナーやオンラインを使った課題解決セミナー等も実施し起業伴走もしていきます。

特に本プログラムでは家事・育児・仕事等を行っていく中で、社会のためや自己実現のために前に進もうとしている方々を支援しています。そのため個別セッションを中心とした設計にしており、それぞれの生活リズムに合わせて柔軟に取り組むことが可能です。

課題も進み方も人それぞれだからこそ、現状を整理し、小さく実行し、フィードバックを得る。このサイクルを繰り返しながら、起業を“現実のもの”にしていきます。

一歩を踏み出す現場

女性起業支援プログラム特集
“はじめの一歩”のリアル

FROM IDEA TO
ACTION